

原 著

SPF 豚 の 肥 育 用 飼 料 基 準

—とくに TDN の検討—

石塚 勉* 堀 浪衛* 栗山 茂衛* 中村 誠*

昭和 46 年から Secondary 豚の産肉能力調査を実施してきた。すなわち、発育成績については、かなりよい成績を得ることができた反面、と体成績では、と体長が短かく、大割肉片でもロース・バラの割合が多い一方、全般に脂厚であり、肉質、肉色ともにやや未熟と思われるものがあつた。これらの問題を解明する手がかりを得るため、と体時の体重、飼料給与方法、ならびに栄養水準の検討を目的として次のような試験を行なつた。

子豚 30 頭（1 区 10 頭）を使用し、基準区、試験区 I、試験区 II とした（3.6×2.7 m の豚房に 6 頭、2.7×2.3 m の豚房に 4 頭収容）。

3) 期間：各区とも生体重 30~100 kg まで

4) 飼料および給与方法：新産肉能力検定用飼料（不断給餌用）を用いた。すなわち基準区（TDN 68.5%）、試験区 I（TDN 71.5%）および試験区 II（TDN 65.5%）で、DCP 水準は各区とも 12.8% とし、いずれも不断給餌である。

方法および材料

成 績

- 1) 調査年月日：昭和 47 年 7 月~11 月
- 2) 供試豚：L 種 当所生産の Secondary

- 1) 発育成績は表 1 にしめすとおり、試験開始時の日齢は各区ともほぼ同様であり、終了時

表 1 発 育 成 績

区 分 組 別	開始時 30kg 日 齢	前 期 終了時 60kg 日 齢	終了時 100kg 日 齢	前期 30~60kg		後期 60~100kg		全期間 30~100kg	
				所要日数	1日平均 増 体 重	所要日数	1日平均 増 体 重	所要日数	1日平均 増 体 重
基 準 区	69.9	111.1	163.2	41.2	731g	52.1	762g	93.3	755g
試 験 区 1	70.6	109.0	160.5	38.4	787	51.5	759	89.9	772
試 験 区 2	70.2	111.8	166.8	41.6	725	55.0	704	96.6	719

表 2 飼 料 消 費 量 お よ び 飼 料 要 求 率

区 分 組 別	前 期 30~60kg		後 期 60~100kg		全 期 30~100kg	
	飼料消費量	飼料要求率	飼料消費量	飼料要求率	飼料消費量	飼料要求率
基 準 区	69.6kg	2.27	130.5kg	3.29	200.1kg	2.84
試 験 区 1	76.7	2.53	129.0	3.30	205.7	2.96
試 験 区 2	79.7	2.59	150.3	3.88	230.0	3.31

* 新潟種豚改良センター ** 全農東京支所

日齢で試験区 I 160.5 日, 基準区 163.2 日, 試験区 II 166.8 日の順となった。

2) 所要日数でも同様で試験区 I 約 90 日, 基準区 93 日, 試験区 II 97 日であった。

3) 1 日平均増体重については, 全期間を通じて試験区 I 772 g, 基準区 755 g, 試験区 II 719 g の順で大差はなかった。

4) 飼料要求率は, 基準区 2.84, 試験区 I 2.96 と, ともに 3.0 を割る成績であり, 試験区 II が 3.31 であった。

5) と体成績は, 表 3 のとおり, と体長は各区とも 100 cm と, 差はみられず, 歩留りでは試験区 I が約 70%, 基準区, 試験区 II ともに

69% となり, また各区間でも大差はなかった。

ロース面積は, 試験区 I 22.2 cm², 基準区 21.5 cm², 試験区 II 20.1 cm² の順で各区とも 90 kg 時と殺のものより約 4.6 cm² 増と, かなりの向上がみられた。

背脂肪の平均厚さは試験区 2.9 cm と厚く, これに対し基準区, 試験区 II ともに 2.5 cm であった。

枝肉格付は (日食協), 上物率で基準区 80%, 試験区 II 60%, 試験区 I 40% の成績となり, 枝肉 kg 当りの落価格は, 基準区約 7.5 円, 試験区 II 約 14.6 円, 試験区 I 約 30.0 円となった。

表 3 豚 体 成 績 (その 1)

組 別	区 分	絶食体重 kg	と体重量 (冷) kg	と肉歩留 %	と体長 cm	背腰長 II cm	ロース面積 cm ²
基 準 区		96.7	66.8	69.1	100.9	74.0	21.5
試 験 区 I		96.8	67.6	69.9	100.0	74.3	22.2
試 験 区 II		94.6	65.3	69.0	100.8	73.5	20.6
S 46 肥育14		87.3	61.3	70.2	91.2	67.0	16.2

表 4 と 体 成 績 (その 2)

組 別	区 分	大 割 肉 片 の 割 合			背 脂 肪 の 厚 さ			
		カ タ	ロースバラ	ハ ム	カ タ	セ	コ シ	平 均
基 準 区		30.2%	38.5%	31.3%	2.9cm	1.8cm	2.9cm	2.5cm
試 験 区 I		30.1	39.8	30.1	3.3	2.2	3.1	2.9
試 験 区 II		31.1	37.6	31.4	2.8	1.8	2.9	2.5
S 46 肥育14		30.2	39.6	30.2	3.5	2.3	3.2	3.0

表 5 と体成績 (日食協・上物率・格落・価格)

組別	区 分	枝 肉 1	格 付 2	上物率 %	枝 肉 1 kg 当 単 価	枝肉格落 1 kg 当単価	枝 肉 重 量 (1 頭 当)	kg 当単価	枝 肉 金 額 (1 頭 当)
基 準 区		8	2	80	416.52円	- 7.38円	66.8kg	409.14円	27,330円
試 験 区 I		4	6	40	416.52	-30.11	67.6	386.41	26,121
試 験 区 II		6	4	60	416.52	-14.62	65.3	401.90	26,244

要 約

1) 本調査の結果から Secondary 豚の肥育においては, 発育, と体成績ともに基準区が他の 2 区に比較して良好な成績であり, 当所にお

ける Secondary 豚の肥育飼料として適正であると考えられる。

2) 発育成績, と体成績において, 給与飼料の TDN 水準の差が, 各試験区に比較的明らかな差としてあらわれたのは, 供試豚が SPF 豚

に由来していたことと関連があるように思われる。

今後の問題点

1) 現在の市販飼料では TDN 73~75% 水準のものが多く使用されているため, SPF 豚肥育用飼料として再検討の要があると思われ

る。

- 2) DCP 水準についての検討
- 3) 出荷適期 (日齢と体重) と枝肉判定の検討
- 4) 給与飼料について前期 (30~60 kg), 後期 (60~100 kg) の区分の検討